

松戸市まち・ひと・しごと創生懇談会（第14回）開催概要

日時	令和5年2月13日（月） 10:00～12:00
場所	松戸市役所 新館5階 市民サロン
出席者	伊東朱美、大西達也、小方頼昌、栗原伸一、小金谷喜久夫、 坂野喜隆、佐藤浩、水戸美津子（敬称略）
事務局	松戸市総合政策部政策推進課市政総合研究室

1 開会

- 出席者自己紹介

2 松戸市総合戦略等の検証について

- 事務局説明
 - ・ 最新データで見る松戸市の人口動向(R5.1)（資料1）
 - ・ 総合戦略における数値目標・重要業績評価指標の現状値（資料2）
- 出席者意見

- ・ 松戸市は子育てが非常に充実しているが、流山の方がもっと有名である。普通に考えたら、世代層が30から39歳の子育て世代は流山の方に移動されるかと思う。職場の職員でも流山に引っ越す方が多く、一番の人気は流山おおたかの森。これは全体的な東葛地区の傾向ではないかと思う。
- ・ 松戸市は共働き子育てしやすいランキングの一位に選ばれたことをアピールすると、例えば、市川に道の駅ができたので、道の駅松戸とかどうか。道の駅市川は駐車場が大きくて、周りがすごい。なので、松戸も21世紀の森だけじゃなくて、道の駅やスポーツの面での魅力づくりなど、何かできるといいかと思っている。
- ・ コロナ禍で結婚・出生の割合を上げることがかなり難しい中で、ほぼ現状維持していることはとても評価できる。行政の努力がかなり大きいと思う。人口は横ばいで十分で、横ばいを保っているだけいい状況かなという印象を持った。
- ・ 人口は引き算だけでは全く要因分析ができないため、可能であれば松戸の在住年数などを加味した人口移動の分析を行うと、議論が更に進むと思う。松戸に転居してきた人がまた転居しているのか、元々松戸に住んでいて結婚して子供が小学校に行く時に、近隣市の方がいいと思って転

居するのか。その辺りの分析が、今後の施策の検討には大事だと思う。

- ・ 給食費の無料化は政策的な問題であり、例えば、埼玉県のとある市では、市長が子育ての関係で人気あるが、その方は給食費無償化しないと言っている。その自治体では給食無償化にかかる予算は子供の環境整備に回したほうがいいということを市民に訴え、市民も給食費無償化よりは環境整備の方がいいと納得した。
- ・ 給食費の無償化は政治的・政策的なもので、松戸市がこの理由で人気がないとすれば、アピールの仕方の問題だと思う。給食費の問題は微妙な面もあるので、市長の頑張りになると思う。
- ・ 初めて松戸市に来てから約 23 年経つが、街の姿があまり変わってない。唯一変わったと思ったのは、松戸駅前に聖徳大学 10 号館が新しくできたこと。他はほとんど変わりがないように思える。松戸駅西口を見ると、デパートが無くなっていたり、若干寂しい。柏や流山は、つくばエクスプレスができたことが大きいと思う。駅前を含めて、にぎわいが非常にあるので、魅力を感じられる方もいらっしゃるかと思う。
- ・ 松戸市の資源だけではなく、近隣市の資源も利活用できるという考え方に変えて、松戸から見て、どんな資源がどこにあるかという情報をまとめておくといいのではないかと、例えば、手賀沼や清水公園といった。私も子供がまだ小さいから、遊びにどこへ行こうかと考える際、鉄道網が発達し市外へも行きやすいので、近隣にあるものを生かして、それを自分達の PR に入れてしまうというのも一つの手かと思う。
- ・ 鉄道網の話だと、新松戸駅の快速停車や、武蔵野線の新駅などの話題もあると思うが、そのような整備に合わせて街づくりができると、賑わいが作れると思う。
- ・ 一般的に持続可能性を高めるということは二つのことが挙げられて、一つは、「街の魅力を高める」、もう一つは「少子化対策」ということがある。
- ・ 街の魅力を高めるということは、松戸は、例えば柏などと比べると、もう少しと思うが、我孫子と比べるとすごい。取手と比べても素晴らしいが、現在、取手駅西口を再開発しているので、「取手の時代」だと言っている人もいる。
- ・ 例えば、千葉大学園芸学部の方々が市民活動や植樹を通じた街づくりをやっておられる。そういうモデル的な素晴らしさを出していくと街の魅力は高まるし、こういう場で議論できるのは素晴らしいことだと思う。
- ・ 少子化対策は、婚姻率が微妙な数値であるが、これは全国的な話である。

合計特殊出生率も松戸市は令和 3 年で 1.16 と減少傾向にあり、目標値をかなり下回っていることから、喫緊の課題だと言える。

- ・ 結婚や子供が育てられるという考え方は非常に重要だと思うので、子育てと子づくりのできる環境整備を、急がなくてはいけないと思う。若い 20 代～30 代の独身率もかなり上がっているはずなので、それをどのように高めるかということを考えていかないと、少なくとも少子化に関しては止まらない。
- ・ データを見る限り、松戸市は人口 50 万人弱を維持しており、良く言えば、安定していて、かなり成熟した街と言えるが、逆にとらえると、変化が少ないと言える。
- ・ 流山や柏の話が出ているが、流山は松戸に比べると、昔は畑ばかりで、開発の余地があって、そこにつくばエクスプレスが通り、都市開発がすごい勢いで進んでいる。これはもはや環境の違いだと思う。
- ・ 松戸も流山と同じように共働き世帯に向けた施策を打ち出していると思うが、流山はPRが上手いと思う。
- ・ PR面で松戸が打ち出すとしたら質の部分で、例えば教育レベルとか、松戸が実施している小学校施策とか中学校施策が他と違うという魅力があれば、一つアピールポイントになると思う。
- ・ 例えば関西の方でも、教育レベルが昔から有名なところと、そうでないところではかなり地価も異なるため、集まってくる方々も、それに応じて、街の雰囲気も変わってくる。松戸も様々な教育機関があるため、その辺をPRされることも一つかなと思う。
- ・ 例えば、松戸の産業構造は商業の割合が多いと思うが、流山はインターチェンジ近くに物流拠点が誘致されている。また、誘致するだけでなく、従業員の住宅整備や緑化を求めるなど、様々な配慮をしながら街づくりをしていることも参考になると思う。松戸も川沿いなど、多少なりとも整備される部分があると考えられる。
- ・ 若い女性が仕事の帰りにちょっと育児の相談などをできるような場所があると、すごく違うと思う。育児で悩んでいる時に、通りすがりに見て、パンフレットでも何でもいいので、立ち寄れる場所があるといいと思う。
- ・ 指標 6 の「松戸の良さを伝えるために取り組んでいる市民の割合」が、あまり伸びていない。やはり市民がいいと思わないと。特に女性は口コミで繋がることが多い。

- ・ 小学校に入る前の家族で、このまま松戸にしようか他市へ転居しようかと考えている人達をターゲットにして、松戸の未来を考えるワークショップを企画したりするのもいいかなと思う。
- ・ 若い子育てのお母さん方のネットワークでは、様々な情報交換をしているので、男性はあまり感じないのかもしれないが、小学校が綺麗などというのは、口コミとかではよく出てくるフレーズである。小学校に入るか入らないかの子どもを持つ人たちにいかに松戸に住んでもらうという意味では、環境整備も大事だと思う。

3 松戸市における総合戦略について

ア 地方創生をめぐる国の動向について

イ 総合戦略と一体となった「松戸市総合計画」について

- 事務局説明
- 出席者意見

- ・ 全体的に少し欠けていると思ったのは、協働の視点。協働の視点を打ち出したほうがよかったと思う。なぜかと言うと、松戸市はかなり協働に力を入れていて、松戸では協働を進めるために「まつど地域活躍塾」を実施しており、これは市長の肝いりだと思う。
- ・ 私に関わっている自治体では、協働事業提案制度で補助金を出しても手を挙げない。この点松戸市はコロナ禍でも市民活動も盛んで、協働という土壌が非常にある。松戸の将来のまちづくりも協働の視点があれば、さらによかったと思う。

4 SDGs 未来都市・自治体 SDGs モデル事業について

- 事務局説明
- 出席者意見
 - ・ 特になし。

5 事務局からの報告

- 事務局説明
 - ・ 懇談会での意見等は、庁内関係部署にフィードバックする。
 - ・ 懇談会の資料及び懇談概要を松戸市のホームページに掲載する。

以上